

小島氏らランチェスター賞に輝く

昨年11月に米国アリゾナ州フェニックスで開かれたORSA/TIMSの年会で、米国OR学会で最も伝統のあるランチェスター賞が、小島政和(東工大)、水野真治(統数研)、野間俊人(防衛庁)、吉瀬章子(筑波大) N. Megiddo (IBMアルマデン研究所) の5氏に対して授与された。受賞理由はもちろん、“線形計画問題および線形相補性問題に対する内点法の研究”である。

小島氏は1984年にカーマーカー法が発表された直後、まだその将来性を人々が疑っていた頃から内点法の研究に取り組み、いくつかの先駆的業績を挙げたが、それ以来、東京工業大学の同僚or学生であった水野、野間、吉瀬氏およびIBMのMegiddo氏らと精力的にこの分野の研究に取り組み、内点法の精密化と実用化に決定的な貢献を果たした。特に1988年以来の主・双対内

点法の研究は、線形計画問題と凸2次計画問題を包摂する線形相補性問題の解法として、1つの頂点を極めたものであり、内外の専門家の高い評価を得ている。

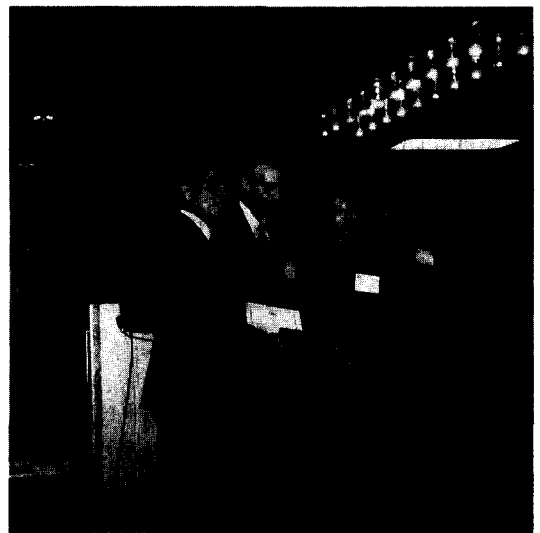
筆者はこの10年余り、M. Kojima and Associatesの ϵ -近傍にあって、次々と発表される画期的成果に文字どおり瞠目し、そのパワーとモラルの高さに心服し続けてきたが、このような強力な研究集団が出現したのは優れた才能を最大限に発揮させる自由な研究環境作りの面での小島氏の卓越した能力とキャラクターによるところが大きい。またその期待に完璧に応えた凄腕の若者たちに心からの拍手を送りたい。日本のOR研究者が海外での大きな賞を貰うのは、多分これが初めてだと思われるが、数理計画法を始めとする日本のORの研究水準は、人々が考える以上のレベルに達しているのではないのだろうか。この受賞を契機にわれわれの仲間の中から次々と国際的な賞を受賞する人が出現することを期待したいものである。(今野浩記)

受賞式に参加して

I was just informed that we (Kojima, Mizuno, Noma, yourself and me) got the Lanchester prize! Congratulations! It will be nice that you will attend the meeting in Phoenix to receive it. It is a great honor. - 9月14日の朝、Megiddo博士からこのメールをいただいて、文字どおり仰天しました。当初関係者のうち、受賞式が行なわれるORSA/TIMSフェニックス会議への参加予定者は私だけでしたが、最終的にはMegiddo博士、野間さん、私の3人が出席しました。

会議の2日目(11月2日)に受賞式を兼ねた昼食会が行なわれました。100人ほどの出席者がにぎやかに食卓を囲む中、まずKimball AwardがSeth Bonder教授に、ORSA PrizeがUnited Airlines社とOffice of Management & Budget of New York Cityに、各賞の表彰委員長から贈られました。そして最後に、Lanchester Prizeの表彰委員長であるBellcore社のMonma博士から私たち3人のそれぞれに表彰状、賞金\$1,000および記念のメダルが渡されました。受賞式後、Mangasarian教授、Gass教授ら多くの方々から祝福をいただきました。受賞した5人の中で最も若輩の私にとりまして、この場に小島先生、水野さんが居られなかったことは何よりも残念なことでした。

今回の受賞に至るまで、多くの皆様にお力添えを頂



左よりMonma教授、Megiddo博士、私、野間さん
(土谷 隆氏撮影)

きました。東京工業大学の今野浩先生には、ノミネートの際に貴重な推薦文を賜りました。また、統計数理研究所の土谷隆さんには旅行前・中に何かとお世話になりました。特に私個人につきましては、RAMPより渡航費を補助して頂きましたこと、OR学会の学生論文賞により励まして頂いたことに大変感謝致しております。この誌面をお借りして、お世話になった皆様的心より厚く御礼申し上げます。(吉瀬章子記)